
魔神大戦記 ~ 竜騎士と魔神の籠手 ~

筒賀浦 琴美

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔神大戦記 ～竜騎士と魔神の籠手～

【Nコード】

N3335W

【作者名】

筒賀浦 琴美

【あらすじ】

大空に竜が飛び交う世界、アトラカズ。

そんな世界で旅をしている少年、ケイト・リューベルツは変なトカゲのアルフォーマとともに、とある街で厄介ごとに巻き込まれた。国を挙げて追われている少女、レナ。

レナと旅をしているうちに、ケイトは大きな闇の存在を知っていく。はたして、無事にレナを守りきることができるのか！？

プロローグ

…少し、昔話をしようか。

1000年前、世界はウィザディアス帝国によって支配されていた。街や村は帝国によって重労働な仕事に動員され、ほかの国は重税によって苦しみ、どんどん廃れていった。そんな中、帝国の王ガラダス・サイゼルスはこう言い放った。

「我以外の人間など家畜に過ぎない。」

その言葉に人々は怒り、一度は決起したもののガラダスが放った力の前に皆、倒れた。

ガラダスは魔神と契約し、その力を5つの武具の形にしていたのだ。

ガラダスはその武具を使い、自分に歯向かう者すべてを殺していた。誰一人、その力の前では無力だった。もうだめだとあきらめたとき、人々の前に5人の人間が現れた。

その者は言った、「あきらめるな、あきらめてしまえばそこで終わりなのだ」と。

5人はそれぞれある、武具を着けていた。

一人は、すべてを断ち切る剣。

一人は、邪悪な力からすべてを守る盾

一人は、味方を癒し、敵を滅ぼす杖

一人は、どんな攻撃を受けても傷がつかない鎧

一人は、どんなものでも貫いてしまう槍

5人は魔神と化した王ガラダスを倒すべく旅に出た。それは辛く、大変な日々だった。

王の刺客から狙われ、休めない日々。しかし、それらすべてが5人を強くしていった。

そして、5人はついに王の所までたどり着いた。

「ついに来たか、人間どもよ。」

「私たちは、お前を倒しに来た！覚悟しろ！！」

「いいぞ、私の刺客を倒し、ここまでこれた人間ども！ここで殺してくれるわ！！」

その戦いは、その地を焦土に変えた。魔王は、魔神から授かった力で5人を殺そうとする。

しかし、鎧に弾かれ、剣で斬られ、魔法で攻撃され、槍で刺され、ついに王は追い込まれた。しかし、王も何もしていなかったわけではなかった。王は、自分の命と引き換えに、世界を滅ぼす魔法を生み出した。

「これで貴様らも死ぬ！」

「くそつ、そんなことはさせない！！」

魔法で攻撃し、槍で刺し、剣で斬りつけても、王の放った魔法は壊れなかった。

5人が絶望しきったとき、天から声が降ってきた。

「その魔法とともに、私が消えよう。」

声の正体は、白く輝く竜だった。5人は引き止めた。

「それでは貴方が死んでしまう！！」

「いいのだ。この世界が消えてしまうより、ずっといい。」

「ただ、貴方という大切なものが世界から欠けてしまえば、世界

が壊れてしまう！」

竜は、笑った。

「この世界から、竜は消えない。私が死んだ骸から、新たな竜が生まれてくるだろう。」

竜は、魔法を飲み込み大空へと飛び立った。そして、竜の中から光があふれ、その姿がすべて包まれたとき、光の中から、何百という竜の幼生が出てきた。

王を倒し、世界を平和にするという5人の戦いは、この瞬間に終わった。

その後、5人は分かれて人々に言い伝えて言った。

「私たちを救った竜を忘れてはならない。そして、あの光の中から生まれでた竜を傷つけてはならない。すべての竜は、私たちを救った竜なのだから。」

人々は、その言葉通りに従った。

5人はそれぞれの武器を封印し、それぞれの人生を送り、眠りについていった。

これが、今の世界を造った、「魔神大戦記」のお話さ。

なんか、巻き込まれました

チユンチユンと小鳥が囀る声で、ケイト・リユーベルグは目を覚ました。ベッドから起き上がり、服を探す。

「ふあああ。」

大きなあくびが出、ちょうど服をつかんだところに白い何かが横切った。とりあえず、無視して服を引っ張りあげるとまた白い何かが横切った。

ケイトが服を着る間、白い影はちらちらとケイトの周りをうろつく。ついに、ケイトが切れた。

「だああああっ！！視界をうろつくな、アルフォーマー！！」

ケイトが叫ぶと、白い何かがパタパタと音を立てながら飛んでいた。

5

「だっっておなか減ったんだもん。」

「もんって言うな、もんって。気持ち悪い。」

「ひどっ！ちよっとした気持ちで言ったただけだっつーのに！そりゃねーぜ相棒！！」

「だって事実だろ？はあ、朝から無駄な体力使っちゃまったぜ……。」

「いいから、早く飯を作ってくれ！ハラへって死にそうなんだ！！」

「アルの癖によく言うよ。昨日だっつて、作ってやったのに食いもしねえで……。」

ケイトは長いパンをつかむと、ナイフで大雑把に切り出した。切ったパンの上にチーズとハムを乗せたものを思いっきり齧り付いた。空腹に、チーズとハムのうまみが染み渡る。

もうひとつ切り出すと、さっきと同じようにチーズとハムを乗つけてアルフォーマに差し出した。

「うひょー、来た来たア!!!」

アルフォーマも負けじと齧り付くと、幸せそうに頬を緩めた。そんな様子を見て、ケイトはクスッと笑った。久々に見る相棒の気の抜けた笑顔になぜか笑いがこみ上げてしまった。それに気づいたアルフォーマは小さな口をモゴモゴ動かしながら言った。

「にゃんふえわりやつちえりゅんじゃよ。」

「あーはいはい。しゃべるときは食べてるものを飲み込んでからね。」

「……………ぶはっ、食った食った。で、もう一回聞くが何で笑ってるんだよ。」

「そういつてたんだ…。いや、そんなに安心しきって食べてる表情、久々に見たな…。と。」

それを聞くと、アルフォーマは呆れた顔になった。それに、わけがわからずケイトは焦った。

このトカゲ、怒ると手がつけれなくなるからなあ。

「むしろ、俺が言いたいね。何でお前は3年ぶりに帰ってこれたつて言うのに、そんなに変わらないんだ!!!」

「え、普通じゃない?」

「普通じゃねえだろ…。時々、お前がちゃんとした人間か疑いたくなるぜ…。」

「失礼な、僕だってちゃんとした人間だよ?それを、人を異常扱いしやがって。」

「お前だと、どうも信じられないときがあるんだよ。」

「わかった。もう二度とアルは外に連れてってあげない。」
「さあ、食材を買いに出かけようか！」

明らかに態度が変わった相棒を、またクスッと笑った。

外は、大勢の人でにぎわっていた。

ケイトのいる街、鍛冶都市レプラは、鍛冶が盛んだ。いたるところに鍛冶屋があり、武具を求めて旅人がさまざまな店に入っていく。たまに、値切りの声が外まで聞こえてきて、活気あるこの街がケイトは好きだった。

「見るよ相棒、あつちに人だからできてるぜ。」

「ちよつとアル、しゃべっちゃだめだよ。人に見つかったら厄介な
んだから。」

「いいだろ？別に、誰も見てないんだからさ。」

「だけどさあ……。」

と、言葉が続けようとしたとき、背後から強烈な衝撃が走った。

「ケイトー!!」

「いっつ!?」

ケイトは、背後からの衝撃を起こした張本人を見た。嫌な予感しかないが振り返って見る。

やっぱり、嫌な予感しかなかった。

「ちよつと、いつ帰ってきてたの!?帰ってきてたなら帰ってきた

らしく……」

「ちょ、ちょっと、揺らすのだけは勘弁してアリサ！しゃべれないから……」

「それはいいけど。」

ぱつとつかんでいた襟を離し、ケロつとした顔で見つめる幼馴染を、ケイトは地面に座りながら恐る恐る見上げた。

彼女の名前はアリサ・ハルバツツ。幼馴染で、軽くトラウマを植えつけた人物である。

アリサは、そんな僕を見てニコつと笑った。僕には、それが死の宣告にしか見えなかった。

『あはは、オオミドリミミズー!!』

『うわああああ近づけないでええええええええええ!!!!』

『みせたいものってなに?』

『じゃあそこにたつてて』

『いいけど…』

『えいつ!』

『うえつ!?!ぎゃあああああああ!!』

『こ、こんどはなに…?』

『何もしないからさ。大丈夫だつて!』

『本当に?』

『うん、本当本当!!』

『それならよかつ』どーん』やっぱりかあああああああつ!』

彼女に関わっていいことなんて一個もなかった。むしろトラウマが増えたぐらいだ。

アリサ・ハルバッツは屈託な笑顔でケイトに話しかけた。

「ほんつとひさしぶりねえ。王宮の兵士にはなれたの?」

「あ、ああ。うん、なれたけど…」

「ふーん。弱虫なあんだでもなれるんだ。じゃあ、わたしは楽勝かな?」

「ははは……………」

逃げたい。今すぐここから逃げ出したい。冗談抜きでだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3335w/>

魔神大戦記 ~ 竜騎士と魔神の籠手 ~

2011年11月7日09時04分発行